

後期生徒総会を終えて

校長 濱 中 昌 志

いよいよ、2年生が中心の生徒会がスタートしました。3年生がまだ見守ってしてくれる安心感の中、活発な意見交換が展開され、頼もしく感じました。

そのような中、私からも生徒たちに2つのお願いをしたところです。

1つ目は、「優しい学校を目指す」にあたって

「ありがとう」という言葉を「ごめんなさい」よりも多く使って欲しい。「ごめんなさい」も大切な言葉ですが、「感謝や謝罪の気持ち」。年齢に関係なく、立場に関係なく、大切な言葉。でも、やっぱり私は「ありがとう」をたくさん使いたいと思う。「ごめんなさい」の数だけやさしくなれます。加えて「ありがとう」の数だけ笑顔になって、賢くなれると私は思うのです。

2つ目は、「命を大切にする取り組み」について

それぞれの委員会で提案のあった後期の計画に加えて、生徒会本部や各委員会、学年や学級で「命を大切にする」取り組みを検討して欲しい。

10月に入り市内の交差点で中学生が自転車で横断歩道を横断中に車にはねられるという、痛ましい事故が起きてしまった。これらのことを私事として、当事者として受け止め、交通事故だけでなく、命を大切にする、生徒一人一人が取り組むことができる実践を考えてほしい！こんなお願いをしたところです。

「挨拶できる」生徒はどこかで教育されている！

本校には、素敵な挨拶ができる生徒が多いと感じます。私は、朝は出来るだけ子どもたちを迎えるようにしたいと考えています。しかし、2学期はなかなか出来ておらず反省しております。

挨拶ができる生徒、挨拶のよい生徒に「挨拶素晴らしいね。」と言うと、自然に「ありがとうございます。」と返ってきます。きっと彼らは、12～14歳になるまでのどこかで、挨拶について誰かに教えられているのです。教え育まれているのです。

これには素直に感謝しなければなりません。

「挨拶・返事・聴く姿勢」・・・これはどこにいても、どんな時代になっても不易なもので、挨拶ができない人で一流の人はいないと感じるし、挨拶ができる人を不愉快に思う人はいないと思うのです。

分かっている人（どこかで誰かに教えられている人）は、返事が素直にできるし、話が聴けるのです。将来、子どもたちが「挨拶素晴らしいね。君はどこで教えてもらったの？」と聞かれたとき、堂々と、家庭で、地域で、そして愛宕中で「教えてもらいました。」と言えるように育まなければならないと思うのです。これが、ある意味とても簡単でもあり、ある意味とても難しいことではありますが、我々が目指す山の頂です。

- ・朝や帰りの会、掃除、給食を共通実践する。
- ・靴の入れ方から、挨拶、返事、身だしなみなど、各学年、各学級で丁寧に、大切に接していきます。

学級や学年の目標はもとより、今回、生徒会から提案されたテーマや目標は、生徒の目標でもあります。我々教職員の目標でもあったと感じました。

目標は、生徒の目標となるばかりでなく、教師にとっては意識を揃える視点として有効に機能させて参ります。